

Phyllostachys bambusoides S. et Z (マダケ) 栽培試験について
外 間 現 誠

Regarding the Examination on the cultivation of
Phyllostachys bambusoides S. et Z

By Gensei Hokama

1. は し が き

マダケ (Phyllostachys bambusoides S. et Z) は元来中国原産にして往時渡来し今日では我が琉球各地で普通に栽培されている種である。

地下莖は粗大にして長く散走、初春頃(2月中旬-3月上旬)に筍を生ずる。

本種は竹材加工、利用の価値が大きいためで当場では1955年に南明治山試験林内及び1956年に首里石嶺区有地で栽培試験を実施したが石嶺に植栽したものは試験中途(1958年6月)で林業試験場樹木見本園内に移植したので結果を見ることができなかつた。

今度の報告は南明治山に植栽したものを主体にした。尚本試験の主眼は植栽時期、単位当りの植栽株数の決定である。

2. 供試材料について

今度の試験に供した竹苗は沖縄本島北部産のもので幹径1cm~2.5cmのものに地下莖(15cm~20cm)を付けて2本で1株として掘取つた竹苗を使用した。

竹苗は2~3年生のもので幹を1米の高さにきりとつた。

3. 試験地の状況

本試験は南明治山試験林内に於いて1955年2月に植栽したもので地形は平坦、東南向の川辺で周囲は8~10年生の広葉樹林である。地下水は中位、土壌は砂質、地味良好で戦前のイヌマキ造林地である。

4. 植栽の時期別による活着状況

本調査は経費の都合で毎月同ヶ所において植栽できなかつたが1955年2月に南明治山試験地に植栽したものと1956年12月に首里石嶺試験地に植栽したものを参考に調査してみた。其の結果は第1表の通りである。

第1表 植栽の時期別による活着状況

植付年月日	植付株数	活着株数	活着率	備 考
1955年 2月	60株	40株	66.6%	南明治山 母竹は今帰仁村
調査 1956年12月8日				
植付年月日	植付株数	活着株数	活着率	備 考
1956年12月	60株	54株	90%	首里石嶺 母竹は今帰仁村
調査 1957年11月10日				

第1表の調査表を見ると2月に南明治山試験林内に植栽したものは66.6%の活着率で12月に首里石嶺試験地に植栽したものは90%の活着率を見せ23.4%の差があつた。

5. 植栽株数による成林状況

マダケ (Phyllostachys bambusoides S. et Z) は第4報でものべた通り地下莖によつて散生繁殖をするので1株当りの単位面積を充分勘案して植栽しなければならない。其のため1株当りの植

植栽面積を9平方米区と12平方米当り1株区にして地下莖の伸長状況並に全林地への成林状況等を調査した。其の結果は第2表の通りである。

第2表 単位面積当りの植栽株数による成林状況

1株当り植付面積	植付年月日	発生本数	地下莖の伸長	備考
9平方米	1955年2月	49本	5米	竹苗の地下莖15cm
	調査	1958年12月8日		
1株当り植付面積	植付年月日	発生本数	地下莖の伸長	備考
12平方米	1955年2月	53本	8米	竹苗の地下莖15cm
	調査	1958年12月8日		

第2表の調査票を見ると9平方米当り1株植区は49本の発生本数で地下莖の伸長は5米であつた。又12平方米当り1株植区は53本の発生本数で地下莖の伸長は8米であつた。この状況からして単位面積当りにおける筍の発生本数には大差がなかつたが地下莖の伸長状況には大きな差があつた。

即ち9平方米当り1株植区では植栽株間が密のため外の株から伸長してきた地下莖と交差して地下莖の伸長が阻害されるものと思われた。又12平方米当り1株植区は株間が疎で外の地下莖との交差が少ないため地下莖の伸長は良いと思われた。

6 竹苗別による活着後の成林状況

本調査は竹苗別(地下莖15cm-30cm)による活着後の成林状況を見るために1955年に南明治山試験林内で施行した。其の結果は第3表の通りである。

第3表 竹苗別による活着後の成林状況

竹苗別	植付年月日	発筍本数	地下莖の散生	備考
地下莖15cm苗	1955年2月	20本	3米	9平方米当り1株植
地下莖30cm苗	1955年2月	53本	5米	"
	調査	1958年12月8日		

第3表の調査表からみて竹苗別(地下莖15cm-30cm)の発筍本数は地下莖15cmをつけたものが20本、地下莖30cmをつけたものは53本の発筍で地下莖30cm区は15cm区の2倍以上の発筍をみせていた。

又地下莖の伸長状況も15cmをつけたものは3米で30cmをつけたものは5米の伸長であつた。

この状況からして植付用として鞭根生の竹苗は地下莖を長くつけて堀取りする事が望ましい。

7 結果

本試験の調査票をみると植栽時期別による活着状況では12月に植栽したものは90%で活着良好であつた。又2月に植栽したものは66.6%の活着率で其の差は23.4%であつた。この成績からしてマダケ(*Phyllostachys bambusoides* S. etz.)は11月から1月頃までが植栽適期かと思う。

Phyllostachys bambusoides S. etz. は沖縄北部で2月下旬頃から発筍するが、南部では1月下旬から盛に発筍しているので其の植栽時期も後者とは30日以上差がある。

単位面積当りの植栽株数による成林状況調査の9平方米当り1株植区では49本の発筍本数で地下莖の伸長は5米であつた。又12平方米当り1株植区では53本の発筍本数で地下莖の伸長は8米であつた。この

状況からして *Phyllostachys bambusoides* S. etz の植栽株間は瘠地の場合には9平方メートル
当り1株植又肥地に植栽する場合は12平方メートル当り1株植をした方が新植林地の成林を早め、かつ地下莖
の交差が適当に行なわれるものと思う。

竹苗別による活着後の成林状況調査では地下莖15cm区と地下莖30cm区の発筍本数及び地下莖の伸長
を比較してみた処、地下莖15cm区は20本の発筍で地下莖の伸長は3米であつた。
又地下莖30cm区は53本の発筍本数で地下莖の伸長は5米であつた。

Summary:

1. The investigation was conducted to find out the planting season, the area required for planting one stump and the development of each of the bamboo stumps of this species.
2. It was found out that the best planting season here in Okinawa for this species is in November to February.
3. It was found out that the area required per stump for this species is 12 square meters.
4. The developing stages of this species were learned; the underground part of each of the plants was 30 centimeters in deameter.

この状況からして鞭根性の竹は地下莖を長く(30cm)つけて使用した方が活着後の生育及び成林にも良いと思われた。

8 摘 要

1. *Phyllostachys bambusoides* S. etz の植栽時期、1株当りの植栽面積の決定、竹苗別による成林状況等の調査を行なつた。
2. *Phyllostachys bambusoides* S. etz の沖縄本島における植栽時期(11月から2月)がわかつた。
3. *Phyllostachys bambusoides* S. etz の1株当りの植栽面積(12平方メートル)がわかつた。
4. *Phyllostachys bambusoides* S. etz の竹苗別(地下莖30cm)による成林状況がわかつた。

薬剤による松喰虫の忌避効果について

国 吉 清 保

The Effect of Repellents against pine Berk Beetle

By Seiho Kuniyoshi

はじめに

琉球に於ける松喰虫の被害は1945年以来激増を続け琉球の名勝、旧跡の松の美林も殆んど喰害を受け被害も非常な額に上り、現在では点々と老木が残る程度で昔の面影は見るべき処がなく、悲惨な状態になった。現在迄主に被害木の駆除は伐倒剝皮焼却法を主体として実行して来たのであるが最近農薬に依る駆除方法も実施した結果期待できるものがあり、これについては試験場報告第4号に発表した通りである。松喰虫の予防駆除には林業的、物理的、化学的、生物的防除方法があり、立地条件の悪い琉球では特に永久的防除方法として、今後の松造林及び施業方法の再検討を行い、松樹が害虫に対し抵抗力のある森林を造成する事が理想で、これは林業的、生物的予防方法によつて可能であり是非この方法を奨励したい。最近の松喰虫の動向が老木から幼、壮令林に被害が移行している現状で実に危険な状態である。此の様な現状に於いて、琉球松を松喰虫から未然に防ぎ、現存林分を保護し、森林資源の増殖を計る目的で薬剤散布に依る松喰虫の忌避効果試験を実施したのでその概要を報告し、林業家は勿論一般の方々に参考に供したい。尙試験実施するに当り種々御配慮下さいました経済局林務課長天野鉄郎氏、林業試験場長、多和田真淳氏に対し、厚くお礼申し上げます。

2. 琉球に於ける松喰虫の主なる種類

- | | |
|----------------|---|
| 1. キイロコキワイムシ | <i>Cyphalus fulvus</i> NITTIMA |
| 2. トウヒノヒメキクイムシ | <i>Pityophthorus jucundus</i> BLANDFORD |
| 3. マツノキクイムシ | <i>Myelophilus piniperda</i> LINNE |
| 4. マツノツノキクイムシ | <i>Ips angulatus</i> HOGHOFF |
| 5. マツノシラホンゾウムシ | <i>Cryptorhynchoides insidiosus</i> ROELOFS |

3. 試験場所

久志村南明治山(林業試験場試験林)内で実施した。

4. 試験期日

1958年10月-1959年6月迄

5. 試験地の撰定

調査の正確を期する為の試験林内の苗畑小屋の近くで琉球松の比較的多く、又各種の松喰虫がいる箇所を撰定した。

6. 試 験 方 法

餌木として長1米口径平均3種の健全木を準備し加害状況を知るため無撒布区、撒布区に分けて、各試験区とも3本宛に撒布区は下記の通り薬剤を調合して全面に撒布し、適当な場所に放置して一定の期間になつた時に根元、末口を各々5種宛玉切りし、附着した虫別数を調査して10廻平方に換算して忌避効果の試験を実施した。

7. 供試薬剤の種類と濃度と撒布量

(イ) BHC水和剤	(r 5%)	200倍液
(ロ) BHC水和剤	(r 5%)	100倍液
(ハ) BHC乳剤	(r 10%)	200倍液
(ニ) BHC乳剤	(r 10%)	100倍液

以上石当200-400cc標準として撒布した。

8. 試 験 の 経 過

各薬剤を濃度別に撒布した場合、松喰虫類の被害をどの程度防げるか、又薬剤の残効期間はどの位かについて、調査した結果別紙第1表の通りであつた。尙本試験の外に幼令林(5-10年生)にキイロコキイムシ(*Cryphalus fulvus* NIJIMA)の異状発生をなし、幹、枝の表面に松脂が漏出してキイロコキイムシが盛んに喰害している処にBHC乳剤100倍液を撒布した処効果は大なるものがあつた。尙老木にも薬剤撒布をしたが効果の判定は至難であつた。尙供試木が2ヶ月以上になつた場合木質部の含有水分少くなり、カビ菌が附着して、表皮と木質部が別々になつてキイムシ類は附着しない。尙試験結果表の通りBHC水和剤よりBHC乳剤の方が効果が良い。

9. 結 語

BHCの各種薬剤についての効果は本試験成績で決定することは問題があると思はれるが現段階においては極めて効果が大きいものであることは証明出来る。尙老木に対して薬剤効果の判定は至難であるが幼令林に於いての効果は期待出来る。

尙アカクビキイムシ(*Xyleborus rubricollis* EIOHHOFF)等は比較的他のキイムシより薬剤に対しては強い様に思はれた。本試験の結果立地条件及び諸経費が許せば薬剤を使つて松林を松喰虫から完全に護ることが出来ると思はれる。

9 Conclusion:

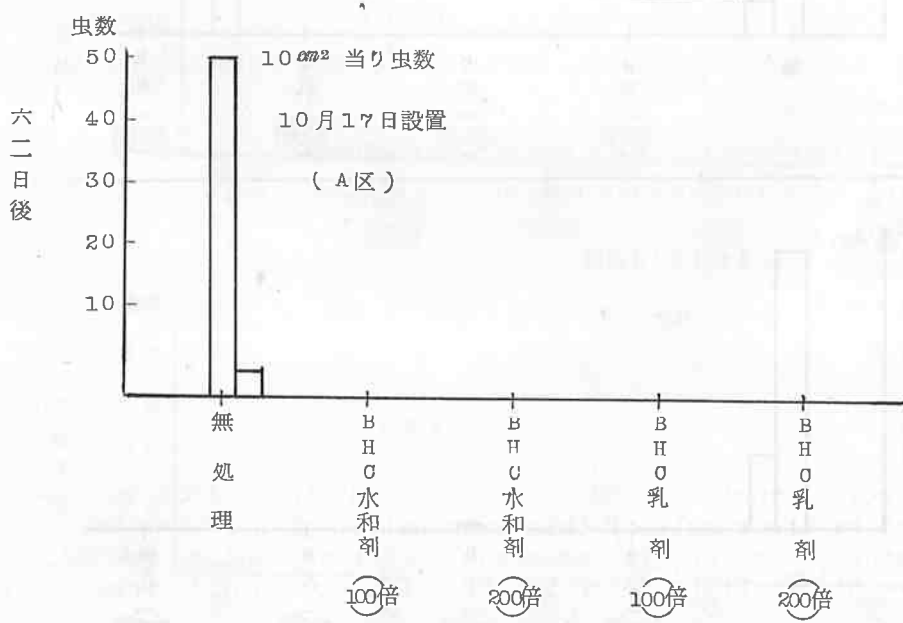
The efficacy of various kinds of B. H. C. medicine cannot be determined by the result of this examination alone. In the present stage, however, its remarkable efficacy can be proved. It is very difficult to determine its efficacy on old trees.

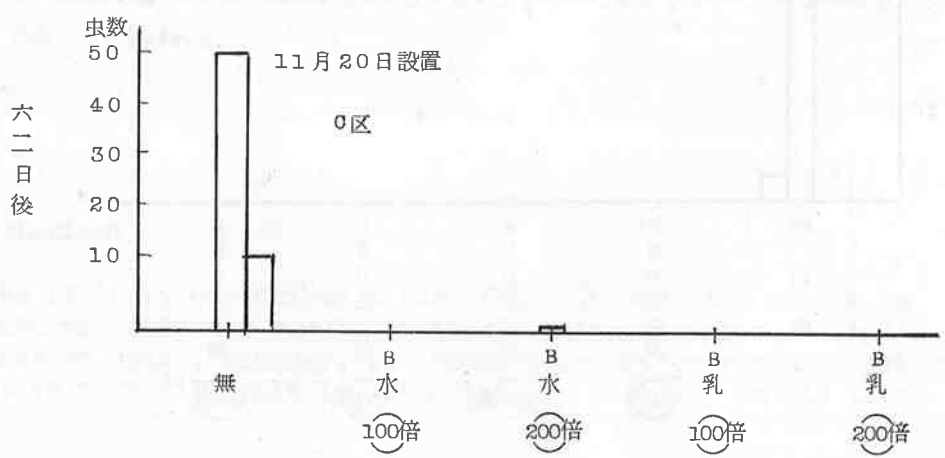
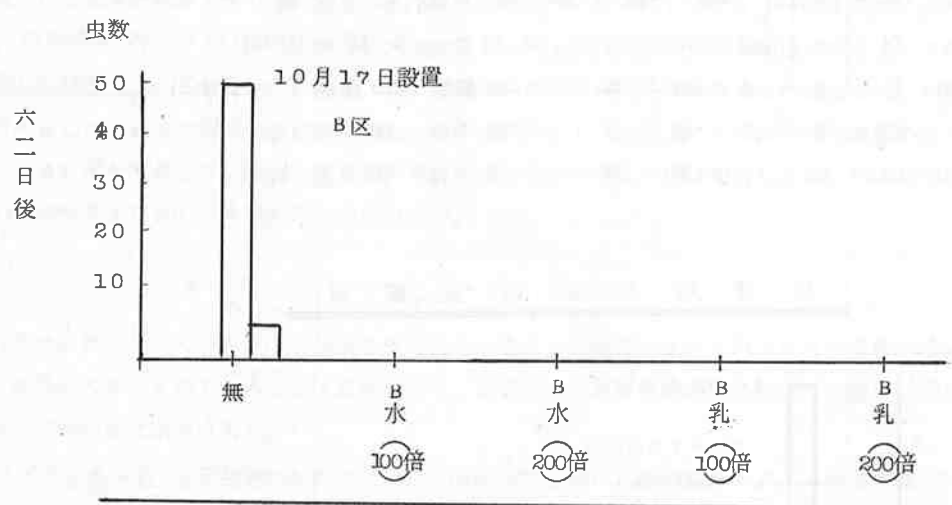
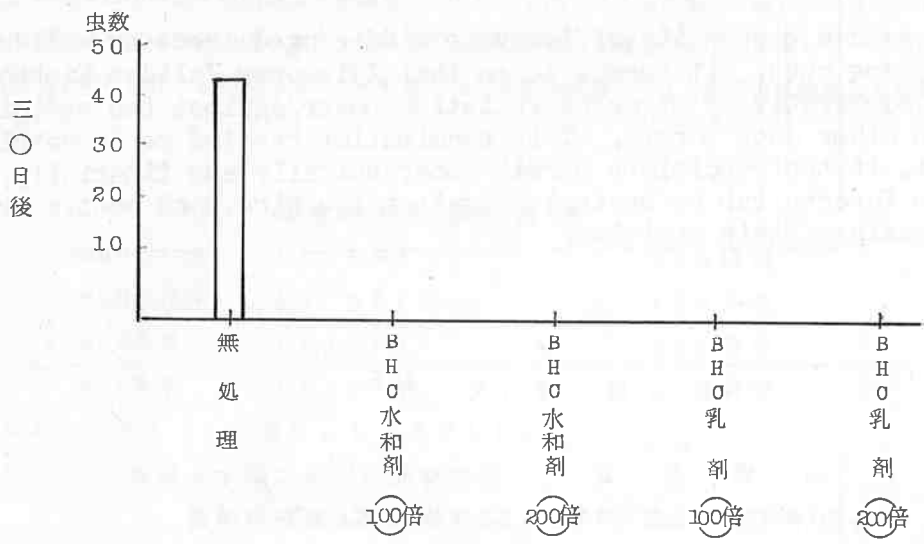
but we can expect its efficacy on middle-aged trees as well as on young ones. It seemed to me that *Xyleborus validus* Eichhoff has comparatively stronger resisting power against the medicine than other wood borers. This examination has led me to conclude that, if the conditions permit geographically and financially, pine forests can be protected against the pine bark beetle with the help of this medicine.

10. 参 考 文 献

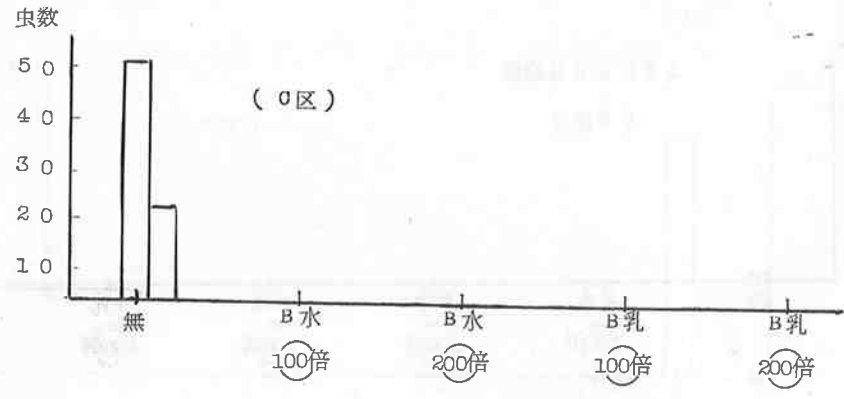
- 1. 村 山 醸 造 著 松類穿孔虫防除に関する研究
- 2. 農林省林業試験場北海道支場発行 森林穿孔虫と腐朽菌図説
- 3. 安 松 京 三 其 の 他 著 応 用 昆 虫 学
- 4. 藍野 祐久, 伊藤 一雄 著 原色病虫害図鑑
- 5. 井 上 元 則 著 松 喰 虫 の 防 除 精 説
- 6. 井 上 元 則 著 林 業 害 虫 防 除 論 (上 , 中)
- 7. 松 下 真 幸 著 森 林 害 虫 学
- 8. 山 本 光 著 森 林 保 護 学

忌 避 効 果 試 験 成 績 表

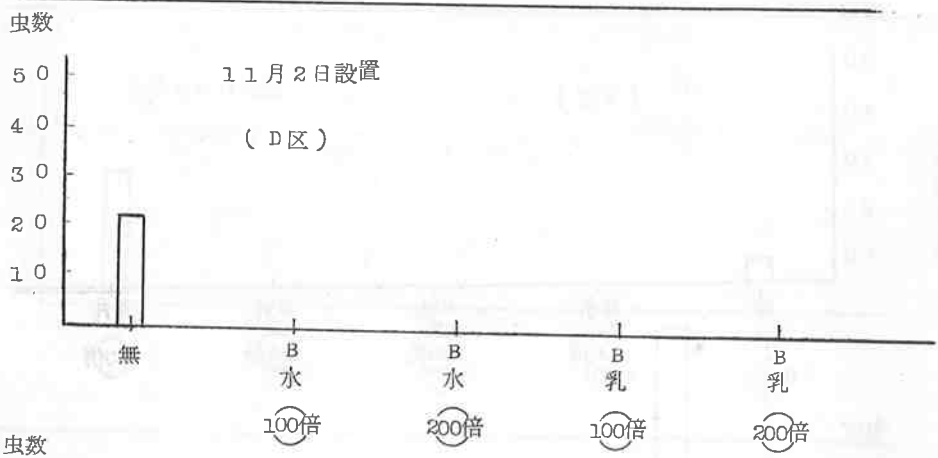




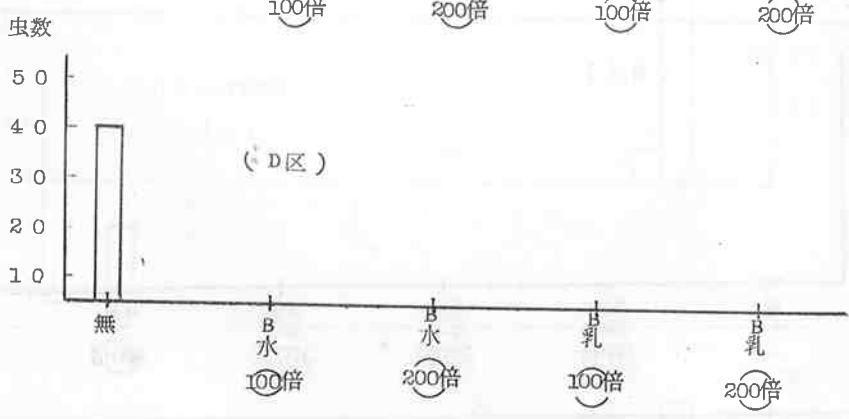
三四日後



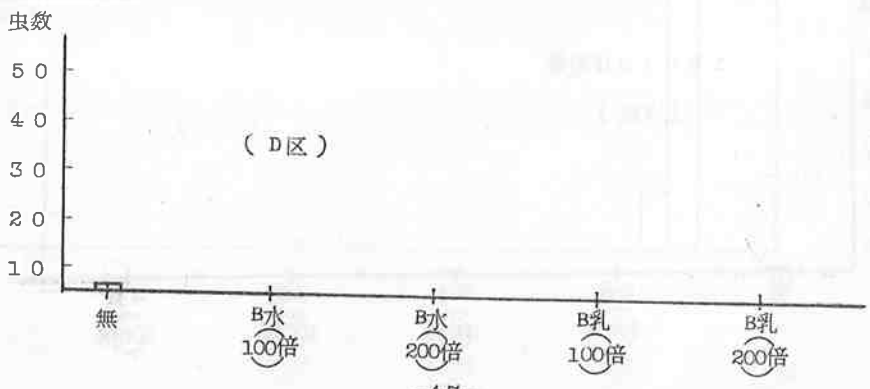
一二〇日後

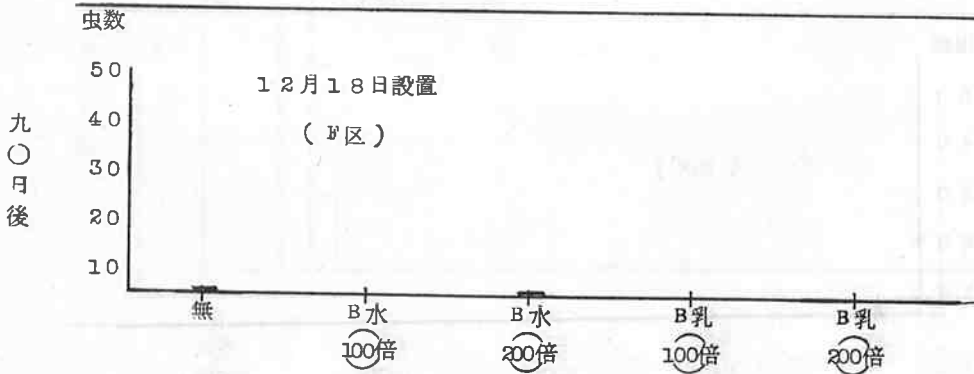
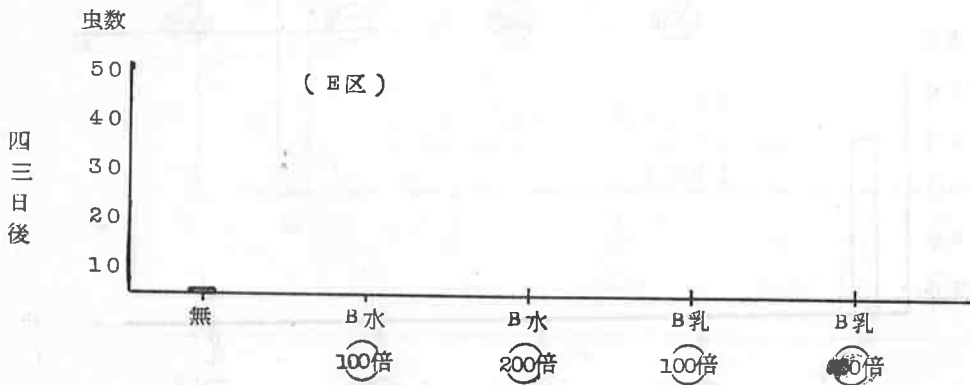
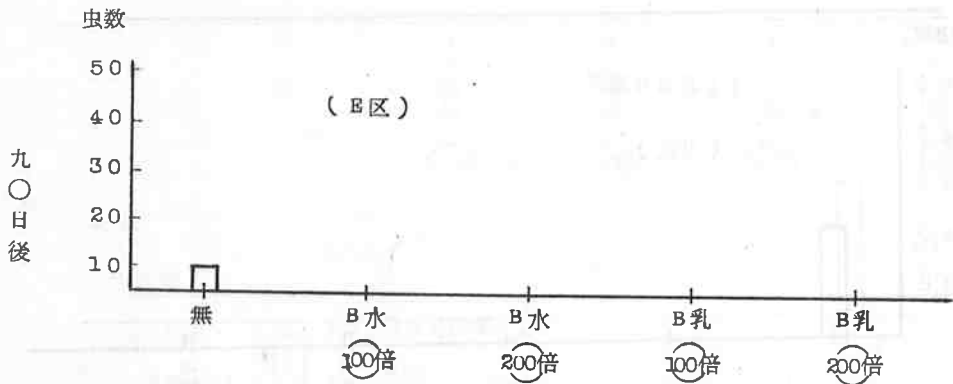
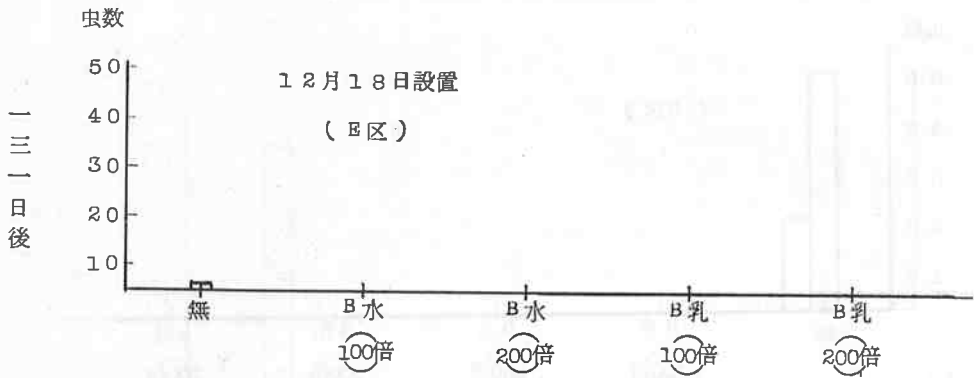


七二日後

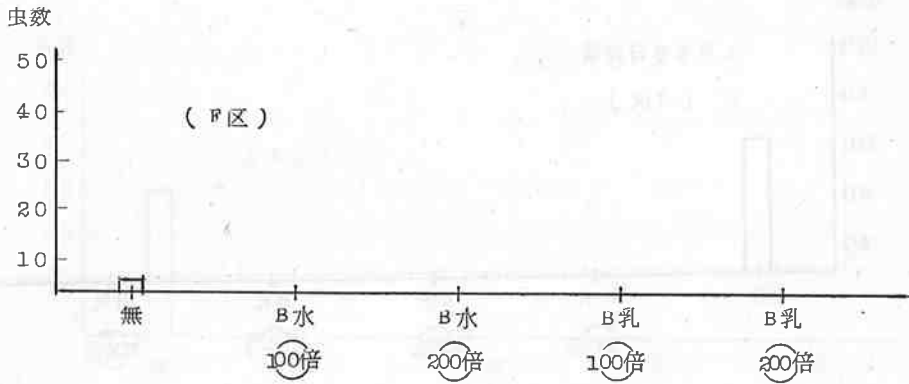


二八日後

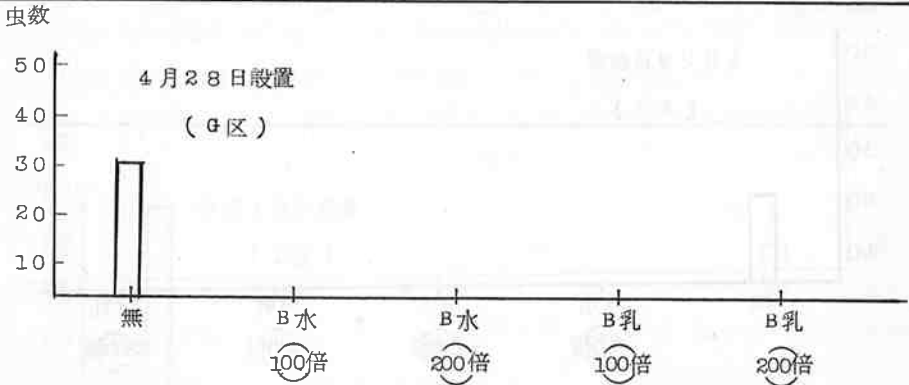




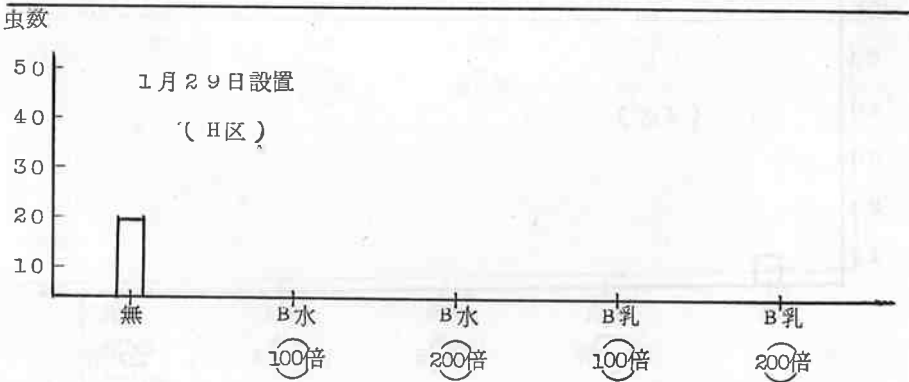
四三日後



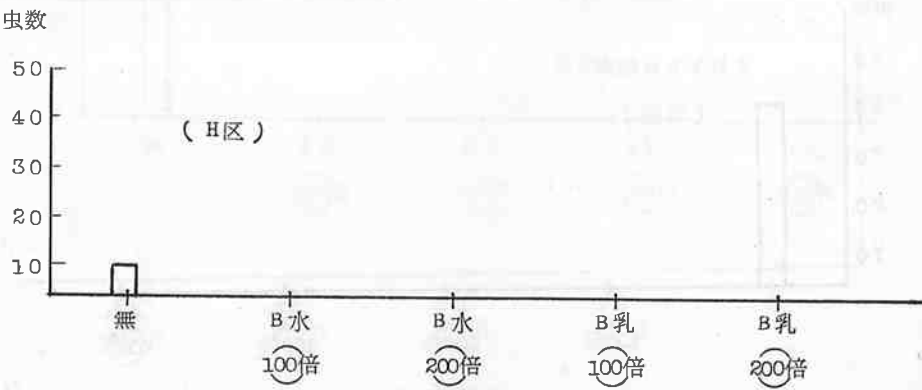
三〇日後



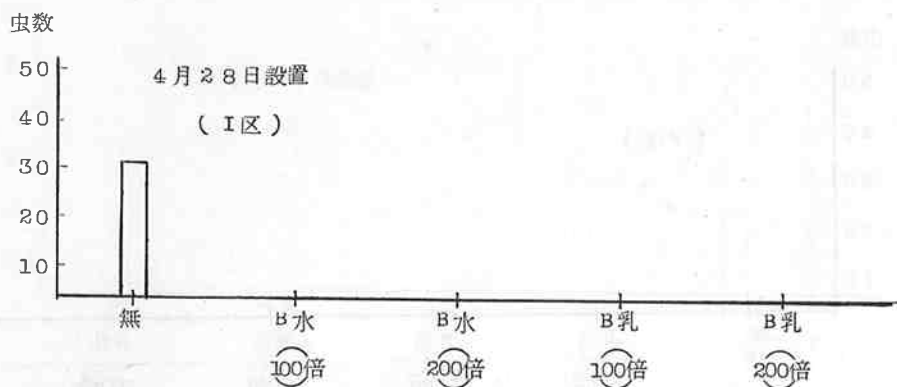
八一日後



五〇日後



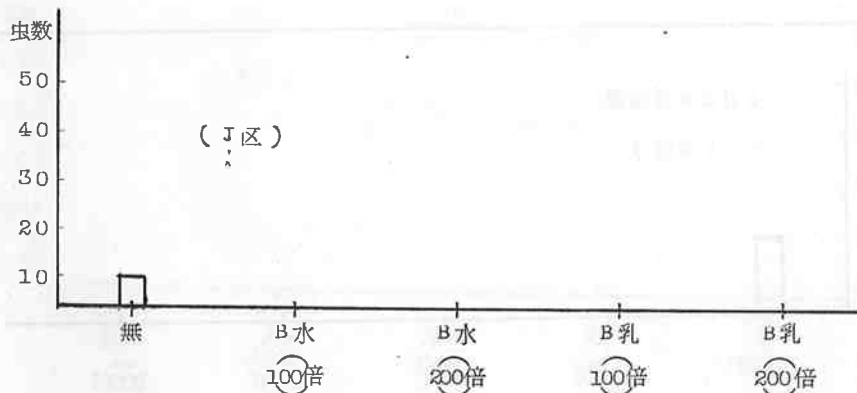
三〇日後



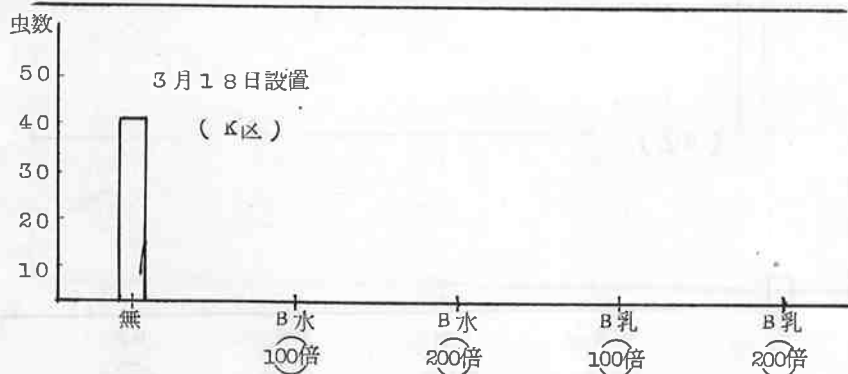
八一日後

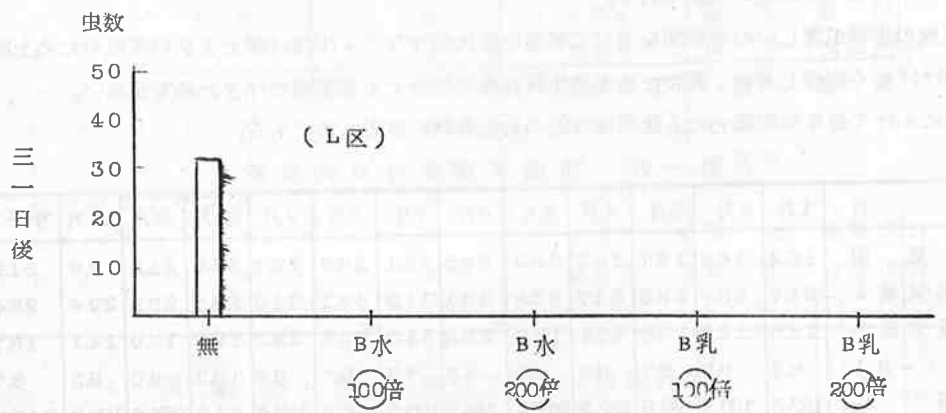
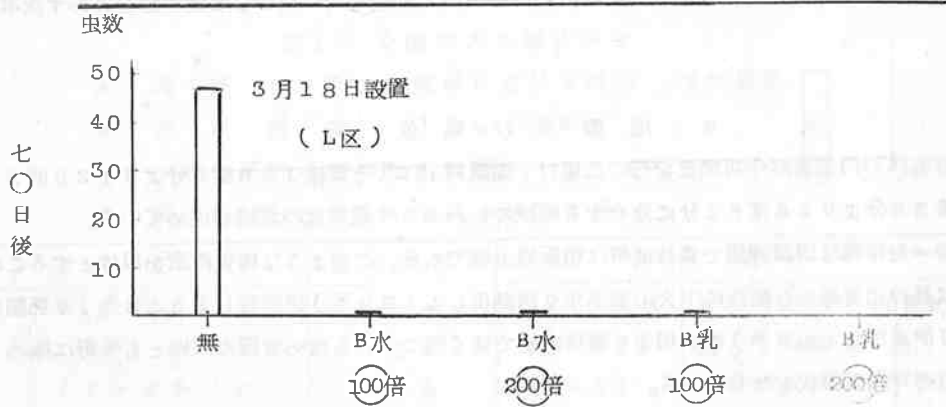
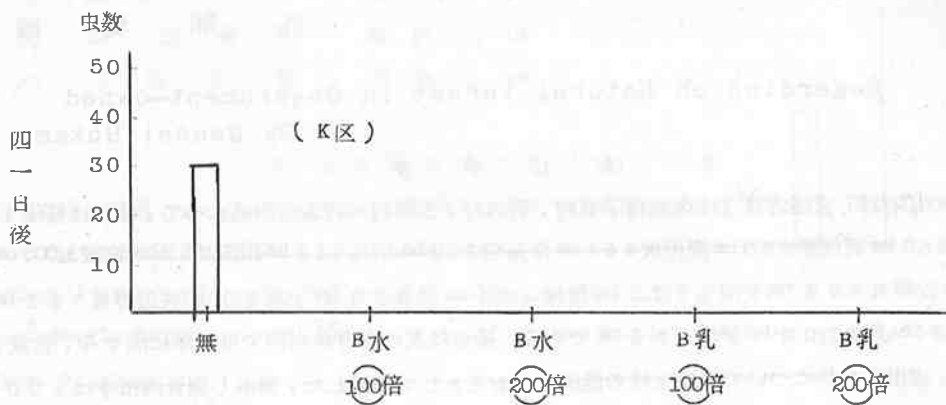


五〇日後



七〇日後





官有林内の天然生林について

外 間 現 誠

Regarding on Natural Forest in Government-owned
By Gensei Hokama

1. は し が き

沖縄本島の官有林(元国有林)は久志村, 東村, 羽地村, 国頭村の行政区内にあつて, 面積は嘉陽100 ha 源河550 ha 天仁屋358 ha 慶佐次444 ha 伊長名100 ha 平良112 ha 川田763 ha 宮城1,005 ha 高江1,983 ha 安波2,574 ha 安田1,723 ha 楚州963 ha 奥258 ha 宇嘉509 ha 辺野喜721 ha, 佐手373 ha 謝敷108 ha 伊地344 ha である。筆者は其の官有林の内で東海岸に面する, 宮城, 高江, 安波, 安田官有林について天然生林の混済歩合を主として調査した, 標本(調査面積)は100平方メートルをとり方形区は尾根と谷にもうけた。尙本調査は経費の都合上下層の草本統を除き木本類について調査した。この調査にあたり標本の鑑定をして下さつた北部農林高等学校の園原咲也氏, 前林業試験場長多和田真淳氏及び種々御厚配と御指導下さつた経済局林務課長天野鉄夫氏にたいし感謝の意を表わす次第である。

2. 地 勢 及 び 気 象

沖縄本島官有林の内筆者が今回調査を行つた東村, 国頭村, は凡そ東経128度5分より128度20分北緯26度35分より26度53分に分布する地域でいわゆる沖縄本島の北端を占めている。

A 地 勢—海岸線は国頭礫層で森林地帯は粘板岩土壤である。このような地質構造を母体とするこの地域の地形は島の北東端から南西に中央山脈が走り西銘岳(419.9米)伊部岳(353.8米)与那覇岳(503米)伊湯岳(449米)等が相連り海岸にまで強く迫つているため東西の両岸とも平野は極めてせまく殊に東海岸は断崖状をなしている。

B 気 象

沖縄本島東村, 国頭村, は全琉球の北端部を占めているので, 沖縄では比較的寒い地域であるが年平均温度(21.9℃)で亜熱帯に近い気候である。

また海洋気象の影響が著しいので年間を通じて気温の変化が少なく, 山地は海上よりの常風のため土壤水分の蒸散がはげしく乾燥し易い, 其のため天然生林の奥地林分でも寄主植物はきわめて少ない。

又夏から秋にかけて毎年数回にわたる猛烈な台風のため森林の被害も大である。

第一表 沖縄本島東村の気象表

項 目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均
平均 気 温	16.2	16.0	17.7	19.2	22.9	26.5	28.1	27.9	26.7	23.0	21.5	17.9	21.9
平均最高気温 A	21.7	20.9	22.3	23.7	26.8	30.1	31.9	32.1	31.0	28.5	25.9	22.4	26.4
平均最低気温 B	13.5	12.2	13.6	15.4	18.8	23.5	24.0	23.4	22.3	18.2	17.9	14.1	18.1
較差 (A-B)	8.2	8.7	8.7	8.3	8.0	6.6	7.9	8.7	8.7	10.3	8.0	8.3	8.7
降 雨 量	153.3	100.5	198.8	222.3	237.4	346.5	180.0	390.8	172.9	61.0	336.6	162.0	217.7
雨 天 日 数	5.0	3.0	1.0	4.0	4.0	2.0	3.0	1.0	3.0	1.0	5.0	5.0	3.0
曇 天 日 数	13.0	14.0	19.0	21.0	21.0	14.0	10.0	6.0	6.0	10.0	16.0	12.0	14.0
晴 天 日 数	13.0	11.0	11.0	5.0	6.0	14.0	18.0	24.0	21.0	0.0	9.0	14.0	13.0

(イ) 調査年月日 自1952年7月 至1956年6月
 (ロ) 調査場所 東村川田
 (ハ) 気温は℃ 雨量はmm

3. 宮城官有林の林分について

宮城官有林7林班, い, は, に, 小班, は林令30年生で広葉樹の天然生林である。高木層の優占種はイタジイ *Gastanopsis Sieboldii* (Mak), Hatusima, イスノキ *Distylium racemoum* S. et Z. ダブ *Machilus Thunbergii* S. et Z. 等である。林床の標徴種は尾根において琉球竹 *Pleioblastus Lineris* Nakai コンダ *Dicranopteris dichotoma* Bernh 谷においてはヘゴ *Gyathia Fauriei* Copel. ヒカゲヘゴ *Alsophila pustulosa* Chr 等である。

尙本林内における各種樹木の混済歩合及び立木度, 材積を示すと次の通りである。

第1表 各種樹木の混済歩合

A 調査ヶ所 宮城官有林7林班 内の尾根
 B 調査面積 100 平方米
 C 100 平方米内の立木本数 114 本
 D 調査年月日 1959年5月

樹 種 名	立木本数	歩 合	備 考
イ タ ジ イ	27 本	23.68 %	直径2cm以上のもの
モ ツ コ ク	14	12.29	喬木, 建築材
タイミンタチバナ	14	12.29	小喬木, 薪, 炭
ヒメユズリハ	8	7.17	小喬木, 薪, 炭
リュウキユウモチ	7	6.14	喬木, 薪, 炭
シマミサオノキ	7	6.14	灌木
コバンモチ	6	5.26	喬木 薪 炭
タ ブ	6	5.26	喬木 建築用材
シバニツケイ	5	4.38	小喬木 薪 炭
シロミミズ	5	4.38	小喬木
カクレミノ	4	3.50	小喬木
ナンパンアワブキ	4	3.50	
ヒサカキサザンカ	4	3.50	喬木 建築用材
ヒメツバキ	3	2.63	喬木 建築用材

A 調査ヶ所 宮城官有林7林班の谷
 B 調査面積 100 平方米
 C 100 平方米内の立木本数 38 本
 D 調査年月日 1959年5月

樹 種 名	立木本数	歩 合	備 考
イ タ ジ イ	10本	26.3%	喬木 建築用材
タイミンタチバナ	8	21.5	小喬木 薪炭
リュウキユウモチ	6	15.7	喬木 薪炭
イ ヌ ガ シ	4	10.5	喬木
タ ブ	2	5.2	喬木 建築用材
ナカハラクロキ	2	5.2	小喬木 用材
ヤマモモ	2	5.2	喬木
イスノキ	2	5.2	喬木 建築用材
ホソバシヤリンバイ	1	2.6	小喬木 薪炭
シバニツケイ	1	2.6	小喬木 薪炭

- A 調査ヶ所 宮城官有林ヲ林班の琉球竹繁茂地
 B 調査面積 100平方米
 C 100平方米内の立木本数, 63本
 D 調査年月日 1959年5月
 E 平均樹高 3米

樹 種 名	立木本数	歩 合	備 考
イ タ ジ イ	33本	52.38%	喬木 建築材, 種子は食用
モ ツ コ ク	11 "	17.46	喬木 建築材, 萌芽力強大
リュウキユウモチ	5 "	7.97	喬木 用材不向, 薪炭材
ア デ ク	4 "	6.34	小喬木
タイミンタチバナ	3 "	4.76	小喬木
シバニツケイ	2 "	3.17	
ホソバシアリンバイ	2 "	3.17	小喬木
コバンモチ	2 "	3.17	喬木
カクレミノ	1 "	1.58	喬木

上記の表を見るとイタジイ (*Castanopsis sieboldii* (Mak) Hatusima) がもともと多く尾根で23.68%谷で24.99%琉球竹繁茂地が52.38%で宮城官有林の標徴種といえるイタジイは沖縄本島中頭(カデナ)以北に分布し萌芽力強大で枝張広く一見、イタジイ群落のように見えるが其の中にはモツコク, 12.29%, タイミンタチバナ12.29%, ヒメユズリハ7.17%, リュウキユウモチ6.14%, タブ5.2%の混済歩合である。

尙前記表の琉球竹, 繁茂地は戦前イヌマキ造林地で全林刈払して植栽した処でイヌマキの生育悪く琉球竹が茂り現在は萌芽力の強いイタジイを標徴種とする平均樹高3米のモツコク, アデク, タイミンタチバナシバニツケイ等が残っている。

第2表 下層稚樹の混済歩合

A 調査ヶ所 宮城官有林7林班, 尾根
 B 調査面積 100平方米
 C 100平方米内の稚樹本数 145本
 D 調査月日 1959年5月

樹 種 名	稚樹本数	歩 合	備 考
タイミンタチバナ	73本	50.34%	小喬木 薪炭
イ タ ジ イ	18 "	12.41 "	喬 木
ア デ ク	10 "	7.58 "	灌 木
オキナワヤブムラサキ	6 "	4.13 "	
ヤンバルミミズバイ	6 "	4.13 "	
タ ブ	6 "	4.13 "	喬 木
シ シ ア ク チ	4 "	2.75 "	灌 木
シ ロ ミ ミ ズ	3 "	2.06 "	
リュウキユウモチ	3 "	2.06 "	喬 木
ヒメユズリハ	2 "	1.37 "	喬 木
ギ - マ	2 "	1.37 "	灌 木
ホ ソ バ タ ブ	2 "	1.37 "	喬 木
シマミサオノキ	1 "	0.68 "	灌 木 材は杖用
ヒメツバキ	1 "	0.68 "	喬 木 建築用材
ウラジロカンコノキ	1 "	0.68 "	小喬木
イヌビワ	1 "	0.68 "	小喬木
コバンギチ	1 "	0.68 "	喬 木
カクレミノ	1 "	0.68 "	喬 木
シパニツケイ	1 "	0.68 "	小喬木
ナンバンアワブキ	1 "	0.68 "	小喬木 薪炭
イヌガシ	1 "	0.68 "	喬 木
ヒサカキサザンカ	1 "	0.68 "	小喬木

A 調査ヶ所 宮城官有林7林班, 谷
 B 調査面積 100平方米
 C 100平方米内の稚樹本数 100本
 D 調査年月日 1959年5月

樹 種 名	稚樹本数	歩 合	備 考
ア デ ク	12本	12%	小喬木
タイミンタチバナ	11 "	11 "	小喬木

ナンバンアワブキ	9本	9%	小喬木
イタジイ	8 "	8 "	喬木
ギョクシンカ	7 "	7 "	
サクラツツジ	6 "	6 "	小喬木
タブ	6 "	6 "	喬木
オキナワウラジロカシ	5 "	5 "	喬木
オキナワソヨゴ	5 "	5 "	
コバンモチ	4 "	4 "	小, 中喬木
ケハダルリミノキ	3 "	3 "	灌木
ヤンパルミミズバイ	3 "	3 "	
イスノキ	3 "	3 "	喬木
オキナワサザンカ	2 "	2 "	小喬木
アカミミズ	2 "	2 "	小喬木
シバニツケイ	2 "	2 "	喬木
シマミサオノキ	1 "	1 "	灌木
ホソバシヤリンバイ	1 "	1 "	小喬木
クロバイ	1 "	1 "	喬木
モツコク	1 "	1 "	喬木
サカキ	1 "	1 "	
フカノキ	1 "	1 "	喬木
ナカハラクロキ	1 "	1 "	小喬木
ヒメツバキ	1 "	1 "	喬木
オキナワシキミ	1 "	1 "	
オキナワジュスネノキ	1 "	1 "	
オウマンリヨウ	1 "	1 "	灌木
ナガミボチヨウジ	1 "	1 "	灌木

上記第2表の下層稚樹混雑歩合表をみると尾根においては小喬木のタイミンタチバナ *Myrsine sequinii* Lec が50.34%で優占し其の次にイタジイ12.41%である。

又谷においてはアデク *Syzgium buxifolium* HooG et Arn が1.2%で次にイタジイ8%の混雑歩合であった。

第3表 宮城官有林7林班の立木本数及び材積調査表

調査ケ所	立木本数	材積	備考
7林班の尾根	114本	0.6520 <i>m³</i>	調査面積100平方米
調査ケ所	立木本数	材積	備考
7林班の谷	50本	1.3742 <i>m³</i>	調査面積100平方米

調 査 ケ 所	立 木 本 数	材 積	備 考
7 林 班 の 尾 根	63本	0.1494 m ³	調査面積 100平方メートル, 琉球竹藪茂地

上記第3表の立木本数及び材積調査表をみると立木度は尾根114本でもつとも多く谷の2倍をこしているが材積は谷の半分である。これは尾根と谷において樹木の樹高生長及び肥大生長が常風及び湿度の影響に大きく支配されるものと思はれる。又琉球竹藪茂地においては樹木の生育悪く平均樹高3米で琉球竹に被圧されている現況である。

3. 高江官有林の林分について

高江官有林18林班は林令30年生の広葉樹林で天然生林である。高木層の優占種はイタジイ *Castanopsis Sieboldii* (Mak) Hatusima ヒメユズリハ *Daphniphyllum Teijsmanni* Zoll. オキナワウラジロガシ *Quercus Miyagii* Koidz 等である。林床の標徴種は尾根においては琉球竹, *Pleoblastus Linearis* Nakai コシダ *Dicranopteris dichotoma* Bernn 谷においてはヘゴ *Elathea Fauriei* OePel 等である。尙高江官有林内における各種樹木の混済歩合及び立木度, 材積を示すと次の通りである。

第4表 各樹種の混済歩合調査表

- A 調 査 ケ 所 高江官有林18林班内の尾根
- B 調 査 面 積 100平方メートル
- C 100平方メートル内の立木本数 82本
- D 調 査 年 月 日 1959年5月

樹 種 名	立 木 本 数	歩 合	備 考
ヒメユズリハ	18本	21.95%	喬木 薪炭
イタジイ	15 "	18.28 "	喬木 建築用材
ホソバシヤリレバイ	11 "	12.19 "	小喬木
ヒメツパキ	9 "	10.97 "	喬木 建築用材
モツコク	7 "	8.53 "	喬木
リュウキユウマツ	6 "	7.31 "	喬木
ナカハラクロキ	4 "	4.87 "	小喬木
コバソモチ	3 "	3.65 "	小喬木
シバニツケイ	2 "	2.43 "	小喬木
タイミンタチバナ	2 "	2.43 "	小喬木
アデク	1 "	1.21 "	灌木
サクラツヅジ	1 "	1.21 "	小喬木
カクレミノ	1 "	1.21 "	小喬木
ゴンズイ	1 "	1.21 "	小喬木
リュウキユウモチ	1 "	1.21 "	小喬木

- A 調 査 ケ 所 高江官有林18林班の谷
- B 調 査 面 積 100平方メートル
- C 100平方メートル内の立木本数 119本
- D 調 査 年 月 日 1959年5月

樹 種 名	立木本数	歩 合	備 考
イ タ ジ イ	30本	25.21%	喬 木
オキナワウラジロカシ	14 "	11.85 "	喬 木
コ パ ン モ チ	10 "	8.49 "	小喬木
タイミンタチバナ	7 "	5.88 "	小喬木
ホソバンヤリンバイ	7 "	5.88 "	小喬木
リュキユウモチ	7 "	5.88 "	小喬木
タ ブ	7 "	5.88 "	喬 木 建築用材
モ ツ コ ク	4 "	3.36 "	喬 木 建築用材
イ ス ノ キ	4 "	3.36 "	喬 木 建築用材
ヒ メ ツ パ キ	4 "	3.36 "	喬 木 建築用材
エ ゴ ノ キ	4 "	3.36 "	中喬木
フ カ ノ キ	3 "	2.52 "	喬 木
ア 、 デ ク	3 "	2.52 "	小喬木
ヒメユズリハ	2 "	1.67 "	喬 木
アカミミズ	2 "	1.67 "	小喬木
サクラツヅシ	2 "	1.67 "	中喬木
シバニツケイ	2 "	1.67 "	中喬木
シマミサオノキ	2 "	1.67 "	灌 木
ヤマモモ	2 "	1.67 "	喬 木
アラバナハイノキ	1 "	0.84 "	
ナカハラクロキ	1 "	0.84 "	中喬木
リュキユウカキ	1 "	0.84 "	喬 木

上記第4表をみると尾根ではヒメユズリハ21.95%でもつとも多く次にイタジ18.28%、ホソバンヤリンバイ12.19%ヒメツパキ10.97%で高木層はイタジイであつた。又谷に於いてはイタジイ25.21%、オキナワウラジロカシ11.85%、コバンモチ8.49%の混済歩合であつた。

第5表 下層稚樹の混済歩合調査

- A 調 査 ケ 所 高江官有林18林班尾根
 B 調 査 面 積 100平方米
 C 100平方米内の稚樹本数 173本
 D 調 査 年 月 日 1959年5月

樹 種 名	稚樹本数	歩 合	備 考
タイミンタチバナ	62本	36.41%	小喬木
イ タ ジ イ	28 "	16.76 "	喬 木
イ ヌ ガ シ	27 "	16.18 "	喬 木
ヒ メ ツ パ キ	14 "	8.09 "	喬 木 建築用材

コバソモチ	8本	4.68%	小喬木
サクラツツジ	8"	4.68"	中喬木
カクレミノ	8"	4.68"	中喬木
シマミサオノキ	4"	2.31"	灌木
ホソバシヤリンバイ	4"	2.31"	小喬木
ギーマ	4"	2.31"	小喬木
アデク	3"	1.73"	小喬木
シロミミズ	2"	1.15"	
モツコク	1"	0.63"	喬木

A 調査ヶ所 高江官有林18林班谷

B 調査面積 100平方米

C 100平方米内の稚樹本数 189本

D 調査年月日 1959年5月

稚樹名	稚樹本数	歩合	備考
イタジイ	37本	19.57%	喬木 建築用材
アデク	28"	14.81"	小喬木
タイミンタチバナ	28"	14.81"	小喬木
コバソモチ	27"	14.28"	喬木
ヒメユズリハ	11"	5.82"	喬木
モツコク	10"	5.29"	喬木
シマミサオノキ	8"	4.23"	灌木
アオバナハイノキ	7"	3.70"	
オキナワトベラ	6"	3.17"	小喬木
シバニツケイ	6"	3.17"	中喬木
ヒメツバキ	4"	2.11"	喬木 建築用材
カクレミノ	4"	2.11"	中喬木
ホソバシヤリンバイ	4"	2.11"	小喬木
シロミミズ	3"	1.58"	中喬木
ヤンバルミミズバイ	2"	1.05"	
ナンバンアワブキ	1"	0.53"	

上記第5表の下層稚樹混済歩合表をみると尾根においては宮城官有林と似て小喬木のタイミンタチバナ *Mirsine sequinii* Lerが36.41%で優占し其の次にイタジイの16.76%イヌガシ16.18%であった。又谷においてはイタジイ19.57%、アデク14.81%の混済歩合になっている。

第6表 高江官有林18林班内の立木度及び材積調査

調査ヶ所	立木本数	材積	備考
18林班の尾根	82本	0.395 m ³	調査面積100平方米
18林班の谷	119本	1.3206 m ³	調査面積100平方米

前記第6表の立木本数及び材積調査表を見ると谷は単位当りの立木本数119本にたいし、尾根は82本で平均樹高においても谷は6米、尾根4米であつた。

4. 結 び

1. 本調査による宮城、高江官有林内の建築用材に使用できる主な樹種の混雑歩合はイタジイ *Castanopsis Sieboldii* (Mak) Hatusima 21.79%、モツコク *Ternstroemia Gymnanthera Sprague* 10.41% タブ *Machilus Thunbergii* S. et Z. 5.46% ヒメツパキ *Schinus Superba* Gord. et Champ 5.65% ヒサカキ *Tutcheria Virgata* Nakai 3.50% 又下木(雑樹)ではイタジイ 14.18% タブ 5.02% ヒメツパキ 2.97% の混雑歩合であつた。

5. 摘 要

1. 本調査において宮城、高江官有林の標徴種はイタジイ *Castanopsis Sieboldii* (Mak) Hatusima であつた。
2. 宮城、高江官有林内における有用樹種の混雑歩合がわかつた。
3. 下層雑樹はタイミンタチバナ *Myrsine Sequinii* Ler アデク *Syzygium buxifolium* Hook et Arn 等の小喬木が多かつた。
4. 宮城官有林内における有用樹種の混雑歩合は尾根が *Castanopsis Sieboldii* (Mak) Hatusima (イタジイ) 23.68% *Ternstroemia Gymnanthera Sprague* (モツコク) 12.29% *Machilus Thunbergii* S. et Z. (タブ) 5.26%、*Schinus Superba* Gord et Champ (ヒメツパキ) 2.63% 谷が *Castanopsis Sieboldii* (Mak) Hatusima 24.99%、*Machilus Thunbergii* S. et Z. 4% *Distylium racemum* S. et Z. (イスノキ) 4% であつた。
5. 高江官有林内における有用樹種の混雑歩合は尾根が *Castanopsis Sieboldii* (Mak) Hatusima 18.28% *Schinus Superba* Gord et Champ 10.97% *Ternstroemia Gymnanthera Sprague* 8.53% 谷が *Castanopsis Sieboldii* (Mak) Hatusima 25.21% *Machilus Thunbergii* S. et Z. 5.88%、*Ternstroemia Gymnanthera Sprague* 3.36%、*Distylium racemum* S. et Z. 3.36%、*Schinus Superba* Gord et Champ 3.36% であつた。

6. 参 考 文 献

- | | |
|------------|------------------|
| 1. 森林生態学講義 | 河 田 杰 著 |
| 2. 生態調査法 | 鈴木 時 夫 |
| 3. 沖縄植物目録 | 初 島 住 彦, 天 野 鉄 夫 |

南 明 治 山 試 験 林 の 植 物
真 栄 城 守 金

The Plants in Minami Meijiyama Experimental Forestry
By Shukin Maeshiro

1. 緒 言

本試験林は国頭郡久志村字久志の行政区域に属し総面積は1355haである。本試験林は1951年
林業試験場創設と同時に当試験場の管理経営することになったが当時は戦後の復興資材搬出のため全林皆
伐されて~~シロキスギ~~カンザンチク~~ススキ~~、コシダ其の他ササ類の繁茂する様になり戦前の森林生態
を見ることは出来なかつた。

それで当時から試験林としての性格上是非同試験林の生態調査をやらねばと思いつゝ今だに未調査のま
ゝとなつている。今回場長のすゝめもあつて生態調査の準備作業として同試験林の植物を調査採集するこ
とにした。調査、採集、標本作成に当り当試験場長多和田真淳氏の御教示を受け又本稿を纏めるに当つて
も採集植物全部の鑑定を受けた。謹んで謝意を表する。

尚本調査、採集は全林隅なく調査した積りであるが短時日の調査のため調査洩れもあると思はれる
ので今后再調査の上追記したい。

本試験林は名護町許田部落から東方約2000米名護町公有林界分水嶺に接し東方は久志村公有林、南
東方は宜野座村公有林に囲まれた一団地で古知屋線(名護町字許田から宜野座村字~~田~~に通ずる横断道路)
から北東方約1000米の処にある。

2. 沿 革

本試験林は元沖縄県有林で第二次大戦後アメリカ民政府財産管理課の下に置かれ後琉球政府に保護管理
される様になつてから1951年当試験場設立と共に試験林として管理経営することになり現在に至つて
いる。

本試験林は戦前琉球松、樟を主林木とする造林地で成績も良好であつたが戦後、復興資材搬出のため皆
伐され今だに戦前の様相は呈していない。特に現在はイタジイを主林木とする常緑樹林と~~シロキスギ~~
ススキで沖縄北部の通俗的な植物帯をなしている。

3. 環 境

A. 気 候

本試験林は設立と共に山地気象を観測しているが過去五ヶ年間の観測値は次の通りである。

第一表 月別平均気温(摂氏度) 自1954年
至1958年

観測点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年平均
試験林内這林小屋	15.8	16.6	17.9	22.1	24.7	27.1	29.1	29.1	27.7	24.9	20.9	17.5	22.7

第二表 月別雨量表(mm)(1954年~1958年)

月 別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年総量
雨 量	1259	163	1433	1368	2698	3694	4591	3381	1628	734	1036	838	23101

B. 地 形

本試験林の地形は概して急斜であるが部分的には平坦地もあるが山腹勾配の平均は $35^{\circ} - 30^{\circ}$ 内外である。

C. 地質及び土壌

此の地域は経済局中央農業研究指導所の調査によると古生紀粘板岩土壌で中腹から尾根筋にかけてはリョウキョウチクカンザンチク(二つとも俗に云うヤンバルタケ)やコシダ等繁茂し又谷間の過辺はシダ類が蔽っている丘陵地帯である。

土壌については未調査のため后日発表することにした。

4 調 査 方 法

本試験林は前述のやうに戦后皆伐され1951年当試験場設立と共に試験林として経営することになり中腹から尾根筋にかけては萌芽林で成林させ谷間の過辺、平坦な所には試験林を設定している。此の様な人工林に於てしかも下刈除伐、間伐等が頻繁にくりかえされ小面積づつの伐採(造林のための地拵等)が毎年飛地的に行われるから植生は極めて不安定である。それで植物の種類も少く全体に亘り隔なく調査したが別紙の通りその種類も極めて少い現状である。その調査は谷間、中腹、尾根筋と三地域に分け最初に木本類、次に草本類の二回に亘り調査採集した。

5 結 び

経済局林業試験場南明治山試験林の種類について報告した。

本林は大正二、三年頃皆伐造林され戦后又皆伐造林されつつあるそれで該試験林は人工的に相当手を加えられているため植物の種類も少ないのではないかと思う。

本試験林に植物の種類を多くするには自然に放置するだけでなく人工的にも多くの植物が植栽される必要がある。

6 摘 要

- 本調査は南明治山試験林全域に亘り調査採集した。
- 本調査によつて同一環境下にある沖縄北部一円の将来に於ける造林樹種決定に役立つ事が出来た。
- 本調査によつて導入樹種の決定と我々が意図する各種造林試験の参考資料を得る事が出来た。
- 本調査によつて森林復生の一部を知る事が出来た。

7 参 考 文 献

- | | | |
|--|------------|----------|
| 1. 初島住彦, 天野鉄夫共著 | 1958年3月 | 沖縄植物目録 |
| 2. 高嶺永言著 | 1952年5月 | 八重山群島植物誌 |
| 3. Egbert H. Walker 著 | 1954年1月 | 琉球重要樹木誌 |
| 4. 園原咲也著 | 1952年2月 | 琉球有用樹木誌 |
| 5. 園原咲也, 多田出真淳
天野鉄夫, Egbert E. Walker | 共著 1952年2月 | 沖縄植物誌 |

Pteridophyta 羊歯植物

Marattiaceae リュウビンタイ科

Angiopteris Suboppositifolia de Vriese リュウビンタイ

Cyatheaaceae ヘゴ科

Alsophila Pustulosa Chr. ヒカゲヘゴ

方言名・ヒグ・ミーヒグ

Cyathea Fauriei Copel. ヘゴ

方言名ヒグ・ウーヒグ

Dicksoniaceae タカワラビ科

Gibotium Barometz J. Sm. タカワラビ

方言名タカワラビ

PolyPodiaceae ウラボシ科

Abacopteris liukuensis Tagawa オオコウモリシダ

Blechnopsis orientalis Presl ヒリュウシダ

Cheiropleuria bicuspis Presl スジヒトツバ

Cyclosorus Parasiticus Farw. ケホシダ

Cyclosorus truncatus Farw. ナタギリシダ

方言名セーグサ

Diplazium Donianum Mett. キノボリシダ

Diplazium lanceum Presl ヘラシダ

Diplazium uraiense Var. cyclolobum Tagawa ヒロハノコギリシダ

Dryopteris Hayatai Tagawa イヌタマシダ

Lastrea oligophlebia Var. lasiocarpa H. Ito アラゲヒメワラビ

Nephrolepis cordifolia L. タマシダ

Pteridium aquilinum Kuhn ワラビ

Pteris Fauriei Hieron. シマハチジョウシダ

Stenoloma Chusamun Ching ホラシノブ

Woodwardia orientalis Var. formosana Rosenst. タイワンコモチシダ

Gleicheniaceae ウラジロ科

Dicranopteris dichotoma Bernh. コシダ

方言名ワラビ

Schizaeaceae カニクサ科

Lygodium microstachyum Desv. タイワンカニクサ

方言名チヌマチカランダ

Lycopodiaceae ヒカゲノカズラ科

Lycopodium Cernuum L. ミズスギ

方言名モウナチヨウラ

Selaqinellaceae イワヒバ科

Selaqinella Doederleinii Hieron.

ミドリカタヒバ

Gymnospermae 裸子植物

Podocarpaceae マキ科

Podocarpus macrophyllus D. Don

イヌマキ

栽培品

方言名チャーギ

Pinaceae マツ科

Cedrus Deodara Loud.

ヒマラヤスギ

栽培品

Pinus densiflora S. et Z.

アカマツ

栽培品

Pinus luchuensis MaYr

リュウキユウマツ

方言名マーチ

Pinus Thunbergii Parl.

クロマツ

栽培品

Pinus Massoniana Lamb.

タイワンアカマツ

栽培品

Pinus Taeda L.

テーダーマツ

栽培品

Pinus echinata Mill

タンヨウマツ

栽培品

(短葉松)

Pinus Caribaea Morelet

スラツシユマツ

栽培品

Pinus Patula

ペートルーマツ

栽培品

Pinus Virginiana Mill

ビルギニヤマツ

栽培品

Taxodiaceae スギ科

Cryptomeria japonica D. Don

スギ

栽培品

方言名スギ、シジ

Unnighamia lanceolata Hook.

コウヨウザン

栽培品

方言名クウインチャー

Metasequoia glyptostroboides Hu et Cheng

アケボノスギ

栽培品

Angiospermae 被子植物
 Dicotyledoneae 双子葉植物
 Archichlamydeae 古生花被区

Casuarinaceae モクマオウ科

Casuarina DePlanchiana Miq. デブランチヤナモクマオウ
 栽培品 方言名 モクマオウ
Casuarina Hugeliana Miq. ヒューゲリヤナモクマオウ
 栽培品 方言名 モクマオウ
Casuarina equisetifolia J. et G. Forst. トキワギヨリユウ(トクサバモクマオウ)
 栽培品 方言名 モクマオウ
Casuarina glauca Sieb. グラウカモクマオウ
 栽培品 方言名 モクマオウ
Casuarina quadrivalvis Labill. クワトリバリスモクマオウ
 栽培品 方言名 モクマオウ

Saururaceae ドクダミ科

Houttuynia Cordata Thunb. ドクダミ
 栽培品
Saururus Chinensis Baill. ハンゲシヨウ
 方言名 クササー

Myricaceae ヤマモモ科

Myrica rubra S. et Z. ヤマモモ
 方言名 ヤマムム

Betulaceae カバノキ科

Alnus formosana Makino タイワンハンノキ
 栽培品

Fagaceae ブナ科

Castanopsis sieboldii (Mak.) Hatusima イタジイ
 方言名 シーザーギー
Lithocarpus edulis Rehd. マテバシイ
 方言名 ドングリギー
Quercus Miyagii Moidz. オキナワワラジロガン
 方言名 カシ

Moraceae クワ科

<i>Ficus Ampelos</i> Burm. f.	ホソバムクイヌビワ
	方言名 ハチコウギー
<i>Ficus erecta</i> Thunb.	イヌビワ
	方言名 ナーソーギー
<i>Ficus Harlandii</i> Benth.	ハルランイヌビワ
	方言名 カーブンギー
<i>Ficus Stipulata</i> Thunb.	ヒメイタビ
	方言名 イシマチ
<i>Ficus Vasculosa</i> Wall.	ハマイヌビワ
	方言名 アンチャネーク
<i>Ficus wightiana</i> Wall.	アコウ
	方言名 ウスク
<i>Morus australis</i> Poir.	シマグワ
	方言名 クワーギ

Urticaceae イラクサ科

<i>Boehmeria nivea</i> Gaud.	カラムシ
	方言名 マーウーベ
<i>Gonostegia hirta</i> Miq.	ツルマオ
<i>Pellionia scabra</i> Benth.	キミズ
<i>Villebrunnea pedunculata</i> Shirai	ハドノキ

Proteaceae ヤマモガシ科

<i>Helicia Cochinchinensis</i> Lour.	ヤマモガシ
--------------------------------------	-------

Loranthaceae ヤドリギ科

<i>Korthalsella Opuntia</i> Merr.	ヒノキバヤドリギ
-----------------------------------	----------

Aristolochiaceae ソマノスズクサ科

<i>Aristolochia liukiuensis</i> Hatusima	リュウキュウソマノスズクサ
--	---------------

Polygonaceae タデ科

<i>Polygonum chinense</i> L.	ツルソバ
	方言名 シイボウザ

Caryophyllaceae ナデシコ科

<i>Carymaria diander</i> Bl.	ヤンバルハコベ
------------------------------	---------

Ranunculaceae キンボウゲ科
Clematis MeYeniana Walp. ヤンバルセンニンソウ

Menispermaceae ツヅラフジ科
Stephania japonica Miens Var. *hispidula* Yamamoto ケハスノハカズラ

Magnoliaceae モクレン科
Illicium anisatum Var. *Masa-Ogatai* Honda オキナワシキミ

Lauraceae クスノキ科
Actinodaphne lancifolia Meisn. カゴノキ
Cinnamomum Camphora Sieb. クスノキ
 方言名 クスヌキ
Cinnamomum Doederleinii Engl. シバニツケイ
 方言名 ハーグワシバキ
Cinnamomum japonicum Sieb. ヤブニツケイ
 方言名 ウフバーシバキ
Machilus japonica S. et Z. ホソバタバ
 方言名 コーガー
Machilus Thunbergii S. et Z. タブ
 方言名 トムシ

Caprifoliaceae フウチヨウソウ科
Crataeva falcata DC. ギョボク

Droseraceae モウセンゴケ科
Drosera spathulata La Bill. コモウセンゴケ

Saxifragaceae ニキノシタ科
Hydrangea liukiensis Nakai リユウキユウ コンテギリ
Itea Oldhamii H. Schneid. ヒイラギズイナ
 方言名 アダニバギー

Pittosporaceae トペラ科
Pittosporum lutchuense Koidz. オキナワトペラ
 方言名 トペラギ

Rhamnelidaceae マンサク科

Distylium racemosum S. et Z.

イ ス ノ キ

Liquidambar formosana Hance

栽培品

方言名 ユンギ

フ ウ

Rosaceae バ ラ 科

Prunus yedoensis Matsum.

栽培品

ソ メ イ ヨ シ ノ

Rhaphiolepis hiiranensis Kanehira

方言名 サ ク ラ

ヒイランシャリンバイ

Rhaphiolepis liukiensis Nakai

方言名 テイカチャー

ホソバシャリンバイ

Rosa Centifolia L.

方言名 テイカチャー

セ イ ヨ ウ バ ラ

Rosa Chinensis Jacq.

栽培品

方言名 バ ラ

コ ワ シ ン バ ラ

Rubus crocacinthus Lev.

栽培品

方言名 バ ラ

リュウキユウバライチゴ

Rubus grayanus Maxim.

方言名 イチユビ

リュウキユウイチゴ

Rubus parvifolius L.

方言名 タカイチユビ

ナワシロイチゴ

Rubus sieboldii Bl.

ホウロクイチゴ

Rubus swinhoii Hance

方言名 ウフバイチユビ

タイノウチ知仔(クワイチゴ)

Rubus utchinensis Koidz.

オキナワウラジロイチゴ

Photinia wrightiana Maxim.

シマカナメモチ

Leguminosae マ メ 科

Acacia Confusa Merr.

栽培品

ソ ウ シ ジ ユ

方言名 ソウシジュ

Amorpha fruticosa L.

栽培品

イ タ チ ハ ギ

Cassia surattensis Burm. f.

栽培品

モ ク セ ン ナ

Albizzia Lebbek Benth.

栽培品

ビ ル マ ネ ム

Acacia decurrens Willd.

栽培品

デ ク レ ン ス

Desmodium caudatum DC.

ミ ソ ナ オ シ

Mucuna Irukanda Ohwi

ウ ジ ル カ ン ダ

方言名 ウーシルカンダ

イ ン ド シ タ ン

Pterocarpus Indicus Willd.

栽 培 品

トキワヤブハギ

Desmodium Tashiroi Matsum.

Indigofera hendecaphylla Jacq.

アフリカコマツナギ

Oxalidaceae カ タ バ ミ 科

Oxalis Corniculata L.

カ タ バ ミ

方言名 メーハジチャー

Oxalis Corymbosa DC.

ムラサキカタバミ

方言名 ヤフワタ

Rutaceae ミ カ シ 科

Eyodia Glauca Miq.

ハ マ セ ン ダ ン

方言名 ヤマグルチ

Polygalaceae ヒ メ ハ ギ 科

Polygala Japonica Houtt.

ヒ メ ハ ギ

Polygala Paniculata L.

コバナヒメハギ

Euphorbiaceae タカトウダイ科

Aleurites moluccana Willd.

ク ク イ ノ キ

栽 培 品

Antidesma japonicum S. et Z.

ヤ マ ヒ ハ ツ

Bischofia javanica Bl.

ア カ ギ

栽 培 品

方言名 アカギ

Codiaeum variegatum Bl.

ク ロ ト ン

裁 培 品

方言名 クロトン

Daphniphyllum Teijsmanni Zoll.

ヒメユズリハ

方言名 ユムナー

Glochidion album Boerl.?

ケ カ シ コ ノ キ

方言名 カーラビズナー

Glochidion hongkongense Muell.-Arg.

カキバカンコノキ

方言名 カーラビズナー

Glochidion lanceolatum Hayata

キールンカンコノキ

方言名 カーラビスナー

Glochidion triandrum O.B. Robinson

ウラジロカンコノキ

方言名 カーラビズナー

Mallotus japonicus Muell.-Arg

アカメガシワ

方言名 タツピー

Sapium sebiferum Roxb.

ナンキンハゼ

栽培品

Anacardiaceae

ウルシ科

Rhus succedanea L.

ハゼノキ

方言名 ハジギ

Aquifoliaceae

モチノキ科

Ilex Hayatana Loesn.

ツゲモチ

方言名 アザムチャガラ

Ilex liukiuensis Loesn.

リュウキユウモチ

方言名 ムチャカラー

Ilex warburtonii Loesn.

オオシバモチ

方言名 ヤムチャギ

Ilex Mitchagara Makino

シマイヌツゲ

Celastraceae

ニシキギ科

Celastrus kusanoi Var. *glaber* Hatusima

リュウキユウツルウメモドキ

Euonymus lutchuensis T. Ito

リュウキユウマユミ

Euonymus tashiroi Maxim.

ヤンバルマユミ

Microtropis japonica Hall, f.

モクレイシ

Staphyleaceae

ミツバウツギ科

Euscaphis japonica Kanitz

ゴンズイ

方言名 ヤマバンキ

Turpinia ternata Nakai

シヨウベンノキ

方言名 ジーブター

Sabiaceae

アワブキ科

Meliosma rhoifolia Maxim.

ヤンバルアワブキ

方言名 チサン

Meliosma rigida S. et Z.

ヤマビワ

方言名 ユイヌゴ

Meliosma ^gStuamulosa Hance

ナンバンアワブキ
方言名 丸ミチ

Rhamnaceae クロウメモドキ科

Berchemia racemosa S. et Z.

クマヤナギ

Rhamnella franguloides Var. ^ginaequilatera (Ohwi) Hatusima

ヤエヤマネコノチチ

Elaeocarpaceae ホルトノキ科

Elaeocarpus japonicus S. et Z.

コバンモチ

方言名 シダチグウ

Elaeocarpus sylvestris Poir.

ホルトノキ

方言名 ターウルサー

Malvaceae アオイ科

Abelmoschus Manihot Medic.

トロロアオイ

Malvastrum ^gtricuspidatum A.

アオイモドキ

Hibiscus Rosa-sinensis L.

ブツソウゲ

栽培品 方言名 アカバナー

Hibiscus sylviacus L.

栽培品 ムクゲ

Urena sinuata L.

ポンテンカ

Sterculiaceae アオギリ科

Heritiera littoralis Ait.

栽培品 サキシマスホウノキ

方言名 シーワーギー

Melochia corchorifolia L.

ノジアオイ

Dilleniaceae マタタビ科

Actinidia rufa Planch.

ナシカズラ

Theaceae ツバキ科

Camellia

リンゴツバキ

f. macrocarpa (Masam.) Hatusima

方言名 チバチ

Camellia ^gsasangua Var. Miyaei (Koidz.) Hatusima

オキナワサザンカ

方言名 ハーグワチバチ

Eurya japonica Thunb.

ヒサカキ

Schima superba Gord. et Champ.

ヒメツバキ

方言名 イシユ

Ternstroemia gymnanthera Sprague

モ ツ コ ク

方言名 イ ー ク

Tutocheria virgata Nakai

ヒ サ カ キ サ ザ ン カ

Flacourtiaceae イ イ ギ リ 科

Idesia polycarpa Maxim.

イ イ ギ リ

方言名 チ リ キ

Cactaceae サ ボ テ ン 科

Opuntia vulgaris Mill.

ヒ ラ ウ チ ワ

Elaeagnaceae グ ミ 科

Elaeagnus glabra Thunb.

ツ ル グ ミ

方言名 ク ー ビ

Myrtaceae フ ト モ モ 科

Eucalyptus robusta Sm.

ロ プ ス タ ー ニ ウ カ リ

栽 培 品

Melaleuca leucadodendron L.

カ ヲ プ テ

栽 培 品

Rhodomyrtus tomentosa Hassk.

テ ン ニ ン カ

方言名 カ プ ト ン グ ワ ー

Syzygium buxifolium Hook. et Arn.

ア デ ク

方言名 ア デ イ ク

Melastomataceae ノ ボ タ ン 科

Bredia hirsuta Bl.

ハ シ カ ン ボ ク

Melastoma candidum D. Don

ノ ボ タ ン

Onagraceae ア カ バ ナ 科

Jussiaea suffruticosa L.

キ ダ チ キ ン バ イ

Araliaceae ウ コ ギ 科

Aralia elata Seem.

タ ラ ノ キ

方言名 ダ ラ ギ

Dendropanax trifidum Makino

カ ク レ ミ ノ

方言名 ユ グ ル

Schefflera Octophylla Harms

フカノキ

方言名 アサグル

Umbelliferae セリ科

Apium Ammi Urban

マツバゼリ

Centella asiatica Urban

ツボグサ

方言名 ボンボロウ

Metachlamydeae 後生花被区

Ericaceae ツツジ科

Rhododendron Simsii Planch.

トウサツキ

Rhododendron Tashiroi Maxim.

サクラツツジ

Vaccinium wrightii A. Gray

ギイマ

方言名 ギイマ

Myrsinaceae ヤブコウジ科

Ardisia Orenata Sims

マンリヨウ

方言名 ンジユシ

Ardisia pusilla f. *liukuensis* Ohwi

リユウキユウツルコウジ

Ardisia quinquegona Bl.

シシアクチ

方言名 アクチャー

Maesa tenera Mez

シマイズセンリヨウ

Myrsine Sekuinii Lev.

タイミンタチバナ

方言名 イリハザー

Ebenaceae カキノキ科

Diospyros Japonica S. et Z.

シナノガキ

Diospyros Morrisiana Hance

トキワガキ

方言名 ガーガー

Symplocaceae ハイノキ科

Symplocos elauca Koidz.

ミミズバイ

方言名 トウユムナー

Symplocos Japonica var. *Nakaharai* Hayata

ナカハラクロキ

方言名 カジクルボー

Symplocos microcalyx Hayata

アマシバ

方言名 灰カンザー

Symplocos Tashiroi Matsum.

ヤンバルミミズバイ

Symplocos Prunifolia S. et Z.

ク ロ バ イ

方言名 ミジクルボウ

Styracaceae エゴノキ科

Styrax Japonicum S. et Z.

エゴノキ(コウトウエゴノキ)

方言名 ヒチャマーギ

Apocynaceae キョウチクトウ科

Anodendron affine Druce

サカキカズラ

方言名 クルミカンダ

Nerium indicum Mill.

キョウチクトウ

Trachelospermum luikiuense Hatusima

リュウキユウテイカズラ

Asclepiadaceae ガガイモ科

Hoya Carnosa R. Br.

サクララン

方言名 チーチークワサー

Marsdenia tinctoria R. Br.

ソメモノカズラ

Tylophora Japonica Mik.

トキワカモメズル

Verbenaceae クマツヅラ科

Calliandra Japonica Thunb. var. *luxurians* Rehd.

オオムラサキシキブ

方言名 イモガーギー

Clerodendron trichotomum Thunb.

ク サ ギ

方言名 クサジナ

Labiatae シソ科

Perilla frutescens Britton var. *acuta* Kudo

シ ソ

方言名 アカナパー

Scutellaria parvifolia Koidz.

コバノタツナミ

Scrophulariaceae ゴマノハグサ科

Lindernia ciliata Pennel

スズメノトウガラシモドキ

Acanthaceae キツネノマゴ科

HysteroPhylla lancea Mik.

オギノツメ

Rubiaceae アカネ科

Gardenia Jasminoides Ellis	クチナシ
f. Grandiflora Makino	方言名 クチナシ
Hedyotis diffusa Willd.	フタバムグラ
Lasianthus Tashiroi Matsum.	タシロルリミノキ
Mussaenda Parviflora Miq.	コンロンカ
Psychotria rubra Poir.	リュウキユウアオキ
Psychotria Serpens L.	シラタマカズラ
Randia Canthioides Champ.	ジマミサオノキ
	方言名 ダシチャ
Serissa foetida Comm.	ハクチョウゲ

栽培品

Tarenna (Yokushinkwa) Ohwi	ギョクシンカ
Thysanopermum diffusum Champ.	ヒョウタンカズラ
	方言名 タジチユウカンダ
Tricalysia dubia Ohwi	シロミミズ
	方言名 ミミザギー
Wendlandia formosana Cowan	アカミミズキ
	方言名 アーカンダー

Caprifoliaceae スイカズラ科

Viburnum Japonicum Spreng.	ハクサンボク
	方言名 ウメーンギー

Cucurbitaceae ウリ科

Trichosanthes rostrata Kitamura	ケカラスウリ
---------------------------------	--------

Campanulaceae キキョウ科

Campanula lancifolia Merr.	タングブ
----------------------------	------

Compositae キク科

Adenostemma Lavenia O. Kuntze	ヌマダイコン
Artemisia asiatica Nakai	ヨモギ
	方言名 フウチパー
Bidens Pilosa L.	コセンダングサ
Blumea Conspicua Hayata	オオキバナムカシヨモギ
Carpesium divaricatum S. et Z.	ガクビソウ
Crassocephalum Crepidioides S. Moore	ペニバナホロギク

<i>Crepidastrium</i> f. <i>Pinatifidum</i> Nakai	ハマナレン
<i>Dichrocephala</i> <i>bicolor</i> Schlttdt.	ブクリユウサイ
<i>Erechtites</i> <i>hieracifolia</i> Var. <i>Cacalioides</i> Griseb.	ウシノタケダグサ
<i>Erigeron</i> <i>Canadensis</i> L.	ヒメムカシヨモギ
<i>Farfugium</i> <i>Japonicum</i> Kitamura	ツワブキ
	方言名 シパンバ
<i>Gnaphalium</i> <i>Japonicum</i> Thunb.	チチコグサ
<i>Gnaphalium</i> <i>multiceps</i> Wall.	ハハコグサ
<i>Gnaphalium</i> <i>Purpureum</i> L.	チチコグサモドキ
<i>Gynura</i> <i>dicolor</i> DC.	スイゼンジナ
<i>Lactuca</i> f. <i>indivisa</i> Kitamura	ホソバアキノノゲシ
<i>Siegesbeckia</i> <i>glabrescens</i> Makino	コメナモミ
<i>Sonchus</i> <i>Oleraceus</i> L.	ハルノノゲシ
<i>Vernonia</i> <i>Cinerea</i> Less.	ムラサキムカシヨモギ
<i>Youngia</i> <i>Japonica</i> DC.	オニタビラコ
<i>Solidago</i> <i>Japonica</i> Var. <i>insularis</i> Kitamura	シマコガネギク

Monocotyledoneae 単子葉植物

Gramineae イネ科

<i>Arthraxon</i> <i>hispidus</i> Makino		コブナグサ
<i>Leleba</i> <i>dolichoclada</i> Nakai	栽培品	チヨウシチク
<i>Leleba</i> <i>Oldhami</i> Munro	栽培品	リョクチク
<i>Coix</i> <i>Lacryma-Jobi</i> L.		ジュズダマ
<i>Cyrtococcum</i> <i>Patens</i> A. Camus		ヒメチゴザサ
<i>Sinocolanus</i> <i>latifolius</i> Munro	栽培品	マチク
<i>Digitalia</i> <i>adscendens</i> Henr.		メヒシバ
<i>Digitalia</i> <i>Chinensis</i> Hornem.		コメヒシバ
<i>Imperata</i> <i>Cylindrica</i> Var. <i>Koenigii</i> Benth.		チガヤ
		方言名 マカヤ
<i>Isachne</i> <i>globosa</i> O. Kuntze		チゴザサ
<i>Ischaemum</i> <i>Grassipes</i> Var. <i>formosanum</i> Nakai		タイワンカモノハン
<i>Lophatherum</i> <i>gracile</i> Brongn.		ササクサ
<i>Microstegium</i> <i>nudum</i> A. Camus		ミヤコササガヤ
<i>Miscanthus</i> <i>Sinensis</i> Anders.		ススキ
		方言名 グシチ
<i>Miscanthus</i> <i>Sinensis</i> Anders. Var. <i>gracillimus</i> Hitchc.		イトススキ
		方言名 ハーグワグシチ

Oplismenus Compositus Beauv.

Panicum repens L.

Paspalum conjugatum Berg.

Paspalum dilatatum Poir.

Paspalum orbiculare G. Forst.

Pennisetum alopecuroides Spreng. f. *Purpurascens* Ohwi

Phyllostachys edulis Houzeau de Lehaie

栽培品

Phyllostachys bambusoides S. et Z.

栽培品

Pleioblastus linearis Nakai

Pogonatherum grinitum Kunth

Sacciolepis indica Chase

Sporobolus elongatus R. Br.

Zoisia Martella Merr.

Pleioplastus Hindsii Nakai

Phyllostachys makinoe Hayata

栽培品

Pleioblastus communis Nakai

Cyperaceae カヤツリグサ科

Hilbostylis densa var. *capitata* Ohwi

Carex nemostachys Steud.

Cyperus tenuis Pica Steud.

Fimbristylis annua Roem. et Schult.

Fimbristylis miliacea Vahl

Rhynchospora rubra Nakino

Gahnia tristis Nees

Scirpus ternatanus Reinw.

Scleria ciliaris Nees

Palmae ヤシ科

Arenca Engleri Becc.

Livistona chinensis var. *subglobosa* Becc.

栽培品

エダウチチヂミグサ

ハイキビ

方言名 ナジチユウ

オガサハラスズメノヒエ

シマスズメノヒエ

スズメノコビエ

チカラシバ

モウソウチク

マダケ

リュウキユウチク

方言名 ヤンバルダキ

イタチガヤ

ハイヌメリ

ネズミノオ

方言名 テンブウグサ

コウシユンシバ

カンザンチク

方言名 ヤンバルダキ

ケイチク

ゴキダケ

イトテンツキ

アキカサスゲ

ミズハナビ

テンツキ

ヒデリコ

イガクサ

クロガヤ

方言名 アンダガヤ

オオアブラガヤ

オオシンジュガヤ

クロツグ

方言名 マーニ

ビロウ

方言名 クバ

Trachycarpus Fortunei Wendl.

シ ユ ロ

栽培品 方言名 チ グ

Araceae サ ト イ モ 科

Alocasia macrorrhiza Schott

ク ワ ズ イ モ

方言名 キーゴーイモ

Commelinaceae ツ ユ グ サ 科

Commelina nudiflora L.

シ マ ツ ユ ク サ

Commelina obliqua Hamilt.

ナンバンツユクサ

Liliaceae ユ リ 科

Dianella ensifolia DC.

ヒキヨウラン

方言名 ビ タ

Smilax China Var. *Kuru Saka* Suohi

オキナワサルトリイバラ

Smilax nervo-marginata Hayata

ササバサンキライ

Phacopogon Japonicus Ker-Gawler

リュウノヒゲ

Dioscoreaceae ヤマノイモ科

Dioscorea bulbifera L.

ニガカシユウ

方言名 ヤマイモ

Zingiberaceae ショウガ科

Alpinia intermedia Gagnep.

アオノクマタケラン

Curcuma aromatica Salisb.

栽培品 キヨウオウ

Orchidaceae ラン科

Lecanorchis brachycarpa Ohwi

オキナワムヨウラン

Liparis formosana Reichb. f.

ユウコ克蘭

summary:

- a. The investigation was conducted in the whole area of Minami Meijiyama Experimental Forestry.
- b. This investigation served the purpose of determination of future species of afforestation trees suitable for the whole northern part of Okinawa in the same environment.
- c. Through this investigation the reference data could be obtained concerning both the determination of the species to be imported and the various types of our future experimental work on afforestation.
- D. A part of forest vegetation could be learned through this investigation.